



オーナーメイドの乗車姿勢を提供する “ジャパン・シート”の次なる取り組み

シートは、どのクルマにも元々備わる必須装備。ただし、あれば満足かという次元を超えた重要な感応部品でもある。ドライバーの身体が最も多く触れる部分だからこそ、アップグレードの恩恵はことさらに大きい。



BRIDEシートは、身体を気遣うスポーツスリートのベンチシートとしても使われている。写真は、Jリーグ・ガンバ大阪のホームスタジアムの例。特別なシートの一つとして、その認知度は日増しに高まっている。

**最新型車にも寄り添う
国産の雄、次のステップ**

「クルマを操る喜びを知るドライバーに伝えるため」——そして「万が一のアクシデント時にドライバーの身体を守るため」——スポーツシートで名を馳せるBRIDE（ブリッド）が創業当時に掲げたコンセプトはこの2つ。その後、主にスポーツドライビングの場でシートに求められる2大性能を求

め続けて35年が経ち、その活躍の場はさらに広がりをみせている。

スポーツシートに求められるのは、低く構える慣れ親しんだ運転姿勢であり、包まれ感が安心を生む剛性感。それでも衝突安全基準を始めとする様々な制約を抱えた近年の新型車は、車体の全てに無駄がなく、その傾向は車内空間からフロア形状にも及ぶ。

汎用型のスポーツシートでは対応しきれない、これら最

新型車なりの環境に合わせ、この夏にブリッドが市場に提案する最新技術の具体化が、ここで紹介する「製品」である。

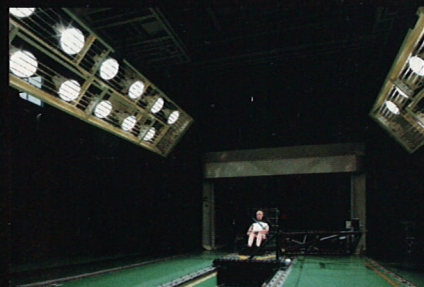
『デイーゴⅢライツ』は、外観上のアクセントだった4点式のレース用ハーネスホールを無くし、従来路線とは趣を変えたコンフォートモデルだ。全高を抑え、肩の張り出しを減らして座面もスリムにした結果、

イクイップメント

シート

BRIDE

[ブリッド]

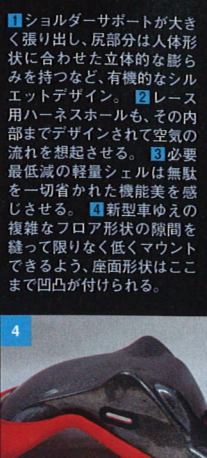


シートは、乗員を直接守る安全部品。ブリッド製品は、クラッシュテストや強度試験をパスした上で、初めて世に出される。ひとつひとつシリアルナンバーが添付され、シートには1年、シートレールには3年の保証が付加される。

新2シーター専用 フルバケットタイプ

空気の流れをイメージしたという三次元エアロ形状のスペシャルモデル。2シーター車ゆえの限られた空間をフル活用するコンパクトシートながら、安心感と乗降製を確保した特殊形状で、寝そべるような低い運転姿勢にアレンジできる。シェルはFRP製で、重量参考値は約6.8kg。

BRIDE
A.i.R.
価格：11万円



装着イメージ ホンダ・S660



装着イメージ マツダ・ロードスター



2シーター限定モデルだけに、主要ターゲットである現行2車種へのフィット感は抜群。独特のデザインが車内で埋没せず、後付けのスペシャル感も併せ持ち、心地よいタイツ感に包まれ感にもつながり、安心感を生む。

着座位置を下げることに
による恩恵は、目線を
下げることにほかに、
操作インターフェイス
までの到達距離を減ら
す点にもある。スズキ・
アルトワークスの場合、
座面が下がることでマ
ニュアルシフトノブが
グッと近づく。こっ
ちが純正位置?と思うほ
どに、しっくり感は歴
然だ。



をプラス。レーシーな低い目
線を得られつつ、激しいGに
もビクともしない剛性感で、
よりスポーツドライビングの
満足感を高めてくれるスペシ
ャリティとなっている。
統括部長・笹尾さんが言う、
「身体は敏感」。視線をちょっ
と下げるだけ、またシフトレ
バーまでの距離が少し変わる
だけでも、運転空間はガラッ
と変わる。数値的にはちよっ
としたこの差が、大きな体感
差となつて表れる。そして、そ
の差こそがブリッドが大事に
する部分。体系的に諸外国と
は違う「日本人が日本人のた
めに作る」ブリッド製品が、多
くの日本人に愛される理由が
ここにある。

装着イメージ スズキ・ アルトワークス

ファミリーカーベースの
スポーツモデルや、キャン
パー等のレジャーカーでも、
ディーゴIIIライツはびつた
りフィット。座り心地はもち
ろん、操作インターフェイス
へのアクセスも容易になり、
運転満足度も高まること問
違いナシ!



七通りの 色バリエーション

カラーラインアップは、ブラックの
ほか、チャコールグレー・グレー・レ
ッド・ブルー・ベージュの全6色のほ
か、ロゴ入りのグラデーションモデ
ルも設定。後者のみ価格は3000円
アップとなる。

装着イメージ トヨタ・ ハイエース



最新型車にも
適合する
日本人が
日本人のために
作ったシートです

ブリッド
取締役 統括部長
笹尾真弘 氏

ブリッド製品についてよく聞かれる質問の一つに「純正以上?」というものがあるそうだ。笹尾さんはその度にこう答えるという——「当たり前です」。



幅広い車種への適合を可能にした。シート背面には収納ポケットを備え、ワンタッチ式のリクライニング調整も可能とするなど、実用本位の小技も活きる。
「スーッとでも降り降りしやすいうように」とは、統括部長である笹尾さんの言葉だ。肩の動きにも自由度があり、動きやすさは確保しつつも、腰や尻といったホールド性の勘所を抑えることでホールド感を生み出す。それでも、座面に使われるウレタン素材や表記の構造は柔らかな乗り心地を生むチューニング。実用本位の作りながらもスポーツシートのツボをポイントで抑えることで、軽自動車から商用車まで、幅広い車種にスポーツシートの特長を開く意欲作だ。
対して、複雑な立体形状の「エア」は、2シータースポーツカー向けの専用モデル。ブリッドの代名詞でもあるローポジション化を推進するため、座面形状は複雑さを極めた。その見た目は、ディーゴIIIライツとは対照的。空気の流れをイメージしたという流麗な形状は、寝そべる形の低い着座姿勢を可能にし、特別感は大い。かつ、尻の形に合わせるように奥に行くほどに広がりを見せる独特のシェルには、中空断面のセミモノコック構造を採用することで剛性感

新スマート コンフォート

好評を博したコンフォートモデル「ディーゴIIライツ」から、バックレストの全高を抑え、かつ左右のショルダーサポートをスリム化。さらにスマートになったことで適合車種の幅が広がった。別売オプションのアームレストを装着可能な、「ディーゴIIIライツ・クルーズ」もある。

BRIDE
DIGO III
LIGHT

価格：8万5000円～
8万8000円



バックレストの全高は、前モデルから3cm低く抑えられている。表皮は難燃生地の高級スウェード調。シートは全面をスウェード表皮で覆われ、背面には書類等を入れられる収納ポケットも添えられる。長時間運転時の疲労軽減にもつながるよう、座面のウレタン素材はより柔らかくアレンジされ、底面は高強度のネット構造となっている。スポーツシートでよくあるダイヤル式ではなく、レバー式機構でワンタッチの角度調整が可能だ。

